



地方創生への思いと協力隊員への期待

熊本県立大学 特任教授（兼）熊本県 国際政策相談役 田中耕太郎

みなさん、初めまして。田中耕太郎と申します。熊本県と JICA が締結した連携協定に基づき、昨年 6 月から熊本県立大学と熊本県庁の兼務で、熊本の国際化関連業務に携わっております。今までは、南アジア（インド中心）、中東地域（イラク、パレスチナ、シリア等）、東南アジア（直近はカンボジア事務所）のオペレーションを担当することが多く、日本国内関連の業務には殆ど携わったことがありませんでした。

大学卒業時に、国際協力の仕事を選んだ結果、その後は地方の課題を正面から見るのがないままのキャリア人生を過ごしてきましたが、大学入学までは正真正銘の田舎者（生まれも育ちも山口県下関市）ですので、自らの親族、友人との関係、自らの魂の声も含めて、地方の課題、新たな動きについては、実はとても気になっていました。さらに言えば、将来の世代に、もっとワクワクするような日本、田舎を残したいという思いを強く持っていますので、そのための最重要テーマの一つである地方創生、特に国際化による地域課題の解決（グローバル）に携われることは、本当にありがたく誇りに思いますし、強い責任も感じています。

今は、新型コロナによる環境激変の中、従来型のインバウンド、アウトバウンドともに冷え込んでいますが、史上空前の豪雨災害に見舞われた、県南地域の復旧・復興支援に、JICA の持っている力で貢献させて頂くための議論をしています。3 月からは、任地派遣前の協力隊員 4 名が人吉・球磨地域等の役場、NPO 等に遊軍的に入り、地域貢献をしながらの特別訓練を行います。中山間地域は少子高齢化が進んだ、いわば困りごとのデパート。困難な課題に真っすぐに向き合い、力強い歩みを進めていらっしゃるカリスマも多くいらっしゃる地で、熱い情熱と

行動力、ユニークな視点を持つ「よそ者」が、柔軟・迅速・果敢な動きで、びっくりするような化学変化を起こしてもらうことを期待しています。この過程は、協力隊員にとっても深い学びと自信になることでしょう。

歴史的意義の高い仕事を成し遂げるためには、一人で考え、行動するよりも、多くの方の知恵・ネットワークを動員することが重要と考えています。JICA 関係者は、大変ユニークなアイデアやネットワークを持っている方が多い「人材の玉手箱」です。熊本での気づき、今後の方向性については、なるべく多くの方々にご相談して、お知恵やネットワークを頂けたらと思っています。

業務面でも生活面でも慣れないこと、分からないことが多いのですが、とても志が高く、気持ちのよい同僚に助けられる、感謝感謝の毎日です。蒲島知事という大ボスは、その強烈な前半生のためか、とても気さく、部下思いで、職員からの上司愛（知事を支えたいという思い）が突出しています。これらは、強い結束力の源泉で、チーム熊本の大きな強みだと感じております。そして、空気も食も水も、温泉も、町の雰囲気も最高です。

年甲斐もなく、メラメラ燃えています、どうぞよろしくお願ひします！



2020年度の活動の記録

本会は毎年1月に総会と講演会を開催しています。しかし本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が熊本県内でも深刻であったことから、開催を中止いたしました。また、上部団体のくまもと国際協力連合会が主催する講演会や帰国報告会もすべて開催が見送られました。そのため、本年度は本会としての活動が行えず、巣籠もりの年になりました。

赤木洋勝元会長を悼んで

昨年8月6日、訃報に愕然としました。1カ月ほど前の熊本豪雨の際、電話でのお見舞いに「家も私たちも無事」とのお答えだったので、以前被害のあった、お宅から公道への通路も大丈夫だったのだと安心したものでした。ただ、消化



故 赤木洋勝 元会長

器系に不具合があることは、ずっと気がかりでしたし、昨秋のアマゾン行きもかなりハードだったのではと推察しております。しかし、ご本人にしてみれば、ご自身の力で、一日でも早く、一人でも多くの人を有機水銀の被害から救いたいとの使命感を抱いておられたものと、その信念と覚悟の程に胸打たれる思いです。

1942：中国長春市（旧満州新京）生まれ

戦後父君の故郷鹿児島県枕崎市で、幼・少年時代を過ごす

1962：岐阜市立岐阜薬科大学入学

1968：同大大学院修了。国立公衆衛生院（現国立保健医療科学院）勤務。同年水俣病公害認定

1976：岐阜薬科大学で薬学博士学位取得

同年カナダ国立科学研究所客員研究員

1978：国立公衆衛生院へ復帰

1981～2003 国立水俣病研究センター

1985：熊本市で行われた日本衛生学会総会で「赤木法」を発表

2004：国際水銀ラボ設立

微量・低濃度のメチル水銀を正確に、しかも安い経費で短時間に測定が可能にした「AKAGI method」は、国際的な評価を受け、今日ではメチル水銀分析法の主流を占めているそうです。

赤木先生が水銀分析技術研修や、調査、協同研究などに訪れた国は、インドネシア、中国、ベトナム、スウェーデン、スロベニア、カザフスタン、タンザニア、ブラジル等広範囲に及び、時間的にも空間的にもいかに精力的に活動しておられたかがうかがえます。

こうしたご業績に対して、

2012：第八回ヘルシーソサエティ賞

2012：瑞宝小綬章

2015：キャサリン・マハフィー生涯功労賞

2015：JICA九州事務所長感謝状

などを受賞しておられます。

赤木先生は、当熊本県 JICA 派遣専門家連絡会においては2006～2015の10年間、また、くまもと国際協力連合会では2016～2018の3年間、会長としてリードして下さいました。その間国内外の試料の分析業務や研修、執筆など激務をこなしながら、役員会などにもその都度水俣から足を運ばれたものです。懇親会・反省会にも楽しそうに参加され、ご帰宅の終電を気にする我々をしり目に、悠然と飲んでおられたものです。リクエストに応じて、「美川憲一より僕の方が先に歌っていた」という柳ヶ瀬ブルースは、今でも耳に残っております。よくダジャレもとばしましたが、国内外の研究者をはじめどんな人とも誠実に話され、相手を引き付ける魅力をお持ちの方でした。

JICA EXPERT くまもとは本号でNo.27になりますが、No.20の田村和子さん、No.22の原田三男さん、No.25の須藤靖明元会長に続いて、赤木先生の追悼まで書くことになるとは、91歳を迎えた老生にとって心痛み、申し訳ないような思いです。赤木先生、天国の水銀事情は如何でしょうか。お酒はうまいそうですね。

どうぞゆっくりお休み下さい。

くまもと国際協力連合会元会長 藤本吉幸

*2016.11.11～12.14 赤木先生が熊本日日新聞に寄稿された「為せば成る 成らぬは」を参考にしました。

「JICA Experts くまもと」は熊本県 JICA 派遣専門家連絡会が発行しています。

2020年度は新型コロナウイルスの全世界的なパンデミックにより、本会も自粛を余儀なくされました。活動実績がなく、会報も表裏2ページの短縮版でお届けいたします。年度末になり、コロナ禍は、外国製ワクチンの接種が始まり、少し光が見えてきました。日本製のワクチンが世界に貢献できれば、と思ったのは私だけでしょうか。来年度は普段の生活が戻ることを願ってやみません。(W)

事務局：〒861-1102 合志市須屋 1635-107 (和田 節), E-mail: wadat520@gmail.com

熊本県 JICA 派遣専門家連絡会 令和2年度役員： 会長：有菌幸司

幹事：石島 嶺、徳尾芳道、和田 節、丸本幸治